

基本設計（素案）の概要に関するアドバイザーからの意見

※H29.12.1までにいただいた意見

【P.1 計画方針】

- 1期庁舎東側は交差点に対しての風格と明るさがほしい。西側についても公園から臨む外観が「建物の裏側」のような印象を受けるファサードは望ましくない。

【P.3 配置計画】

- 「庁舎」「立体駐車場」「宇部広場」の区別がつきやすいよう色分けした方がよい。
- 正面のスペースのあり方を複数案作成して検討すべき。
- 常盤通り側正面に車が寄りつける工夫ができないか。
- タクシーや家族の送迎車等で市役所に来るとき、普通なら正面入口近くに降りたいと思うもの。バスを利用するときも同様。仮に緩速車線をなくすのなら、道路幅を広げて車がもう少し庁舎に近づくようにできないか。又はバス専用の停車機能を設けて、バス停と庁舎を少しでも近づけてはどうか。
- メインエントランスが常盤通りに設置されているのは良い。
- 平面駐車場から1期庁舎北側コーナー部において十分な空間づくりが必要。車の出入りにおいて、1期庁舎が死角となり危険。
(平面駐車場への入り方に工夫が必要)
- 平面駐車場から庁舎へのアプローチはどこからか。特に平面駐車場を利用する方は、高齢者等が考えられるので、配慮が必要。
- 市道栄町線の駐車場進入口部分に右折レーンを検討してはどうか。

【P.4 平面計画】

- セキュリティエリアの設定について、時間外の2階会議室やEVの使い勝手が不明である。説明が必要では。
- 「2期棟がこんなに必要なのか」という意見は必ず出る。何を根拠に面積を想定したかをしっかり説明する必要がある。
- 2期棟で何をするかを決めることが大事。
- 2期棟の前面部分を全て吹き抜けにする必要はないのではないかと。2階に床をはって小部屋が作れば、そこを学習スペースにしてもよい。
- 3階の食堂設置は良い。
- 食堂の位置づけをどうするか。市民を呼び込むものにするのなら、外から直接アクセスしやすい工夫があるとよい。(外階段、サイン等)
- 2期棟にカフェが入るなら、カフェの様子が常盤通りから見えた方がよい。

【P.6 環境計画】

- 2期棟については、ガラス張りだと熱負荷が高いという心配をする人もいるだろうから、ルーバー設置により日射制御することなどは具体的に説明した方がよい。

【P.7 構造計画】

- 下部構造（基礎部分）の考え方についても記載した方がよい。⇒地質調査の結果（支持地盤の深さや古洞の状況等）を出せる範囲で記載し、対策と方針について説明をする。
- 地盤や古洞について心配している人も少なくないと思うので、状況を伝え安心してもらうことも大事。
- 耐震・制震・免震の絵が4階建になっているが、細かいところを見る市民もいるので、1期棟に合わせて6階建の絵にしてはどうか。
- 1期棟：免震構造。2期棟：耐震構造でよいのでは。
- 回廊は独立させた方がよいのではないか。
- 免震と免震をつなぐのは難しい。
- 免震と耐震はできなくはない。
- 免震装置は、水平方向にはやわらかく動く。鉛直方向には非常に強い。（※水平方向には揺れを逃がしてくれるが、鉛直方向にはそのまま直接的に揺れが伝わるため「免震装置」としての機能は期待できない。ただし、構造体としての強度はある。という意味。）

【P.8 広場計画】

- 6つの広場に名前はつけてあるが、実際に何に使うのかが見えてこない。
- 市道真締川東通線は廃止した方がよい。
- 市道真締川東通線は廃止し、広場と真締川公園を一体的に整備するとよい。歩きたくなるような公園にしてほしい。
- 真締川公園はまちなかにある宇部市の財産。せっかくある財産をしっかりと活用して庁舎広場と一体的に整備し、人が訪れたいと思う公園にしてほしい。
- 真締川公園と広場の間にある丘は、高さが出ると公園から庁舎が見えなくなるのでよくないが、ゆるやかなものであれば、座りたくなる場所になりいいのではないか。
- 平面駐車場（多目的広場）は、閑散期に利用可能台数を制限できるような可変的なつくりにしてはどうか。（1/2程度を公園として開放するとか・・・）
- 親水空間のある憩いの広場には、水をモチーフにした作品、噴水機能を取り込んだアート作品を設置してはどうか。（今回の庁舎新設の予算内に作品制作・設置を入れることができるか？）
- 多目的広場（駐車場）には、駐車場の車止機能をもったアート作品を設置してはどうか。（アーティストからのプロポーザルコンペ）
- おもてなし広場には、彫刻を設置することとし、ビエンナーレの枠ともあわせる

形で新庁舎のためのパブリックアートを推薦あるいは公募コンペティションで選定してはいかがでしょうか。(基本的にはプロポーザルコンペ形式。ビエンナーレ担当部署との協議が必要。)

- 常盤並木広場には、まちなかに点在する彫刻作品を再配置してはどうか。現在、あまり人の往来が少ないと思われる場所にも名作があるので、メンテナンスし再配置したらよい。
- 宇部広場は、照明、音響など、フレキシブルに対応できるように。
- 屋上花壇広場には、カフェを併設してはどうか。

【その他】

- サイン計画はわかりやすい表示を心掛けてほしい。
- 来庁舎用駐輪場のファサード(立面計画)は、「止めたくなる駐輪場」をめざす。乱雑になりにくい工夫も必要。
- 立体駐車場は圧迫感の少ない外観にしてほしい。

今後検討すべき項目（ソフト事業）

【P.4 平面計画】

- フロアを指定して（区切って）指定管理者制度等で民に任せてはどうか。
- 長門市が湯本温泉公衆浴場（恩湯・礼湯）の設計と運営方法までを含めて提案をもとめたプロポを実施しているので、参考にしてはどうか。
- 運営を任せるのは、2期棟全体ではなく一部のスペースでよいが、広場の一部（宇部広場・憩いの広場）を含めた方がよりよい運営方法の可能性が広がる。
- 市民活動スペースと広場については、使い方の想定を何十種類も作った上で決めていくべき。
- 市民活動スペースと広場（多目的、憩い、宇部の3つ）については、どう運営し、市民にどう使ってもらえるのか説明がほしい。
- 市民活動スペースや広場を実際に使ってもらえるのは大変なこと。だが、使われなければ面積が大きいだけに必ず批判が出る。早い時期から、体制やソフト、ルール作りをしっかりと考えていく必要がある。
- 市民活動スペースをワンルームとしたことで、逆に使い道をしっかりと考えなければいけない状況になった側面もある。
- 運営方法の検討を今後どのように進めていくか等について少しでも記載できないか。「ちゃんと考えているよ」ということを見せておくとよい。
- 人を呼び込みたいなら「食」を絡めるのが最も効果的。カフェや食堂以外にもコンビニなどが考えられる。

【P.8 広場計画】

- 真締川公園（公園緑地課）と広場（市庁舎）について、管理区分やルール規制の整理が大変では。

【その他】

- 2期棟のバス停からの入口付近にバスロケーションシステムが設置できるとよい。
- 駐車場の運営については、現行料金より高く設定すべき、周辺の民間駐車場との兼ね合いも考慮すること。（民業圧迫にならないように。）
- 職員用駐輪場の台数を増やして利用を促してはどうか。止めやすく、清潔な駐輪場で利用者を増やす。→放置自転車の台数を整理
- 職員が自転車通勤しやすくなるようシャワー等の設備があるとよい。
- 宇部広場から交流スペースにかけて多目的なカルチャー拠点とし、地場物産を「今」の目線でキュレーションしたショップ、カフェ機能を設けてはどうか。
（参考）「神楽坂 la kagu」（隈研吾建築設計）：'衣食住+知'のライフスタイルを提案するキュレーションストア。ショップ、カフェ、レクチャースペース等がある。